



2022年7月期第2四半期 決算説明資料

2022年3月

貴金属表面処理加工分野の
リーディングカンパニー



証券コード番号 3441

目次

2022年7月期 第2四半期業績

2022年7月期 通期見通し

中期事業戦略について

足元の事業動向

ご参考（会社概要等）

▶ 5G通信向け・産業機器向けなどめっき需要は拡大

売上高 4,471百万円
↑ +17.9%

5G通信向け・産業機器・車載など
電子部品需要旺盛→めっき需要は
引き続き順調に拡大

営業利益 317百万円
↑ +272百万円

旺盛な需要への営業強化と生産性向上
で国内黒字化(前年同期は赤字)

純利益 319百万円
↓ △56.1%

今期は、前期の
中国撤退に伴う出資金売却益が発生せず

2022年7月期 2Q決算概要：計画値全て上回る

- ▶ **売上高：+17.9%** 産業機器向け中心に国内電子部品需要が増加
- ▶ **営業利益：増収効果と生産性向上による採算性改善**
- ▶ **純利益：前期は関連会社出資金売却益753百万円を計上**

(単位：百万円)

	2021/7 2Q	2022/7 2Q			
			対前年同期比	期初計画	対計画差異
売上高	3,793	4,471	+678	4,080	+391
営業利益	45	317	+272	160	+157
経常利益	△ 15	317	+332	150	+167
親会社帰属 四半期純利益	727	319	△408	170	+149

増収と採算性改善が同時に進行

▶ 増収と生産性向上で原価低減、売上総利益率21.4%に上昇

▶ コスト・コントロールで販管費率は減少、営業利益増加

(単位：百万円)

	2021/7 2Q		2022/7 2Q		
		構成比 (%)		構成比 (%)	前期比 (%)
売上高	3,793	100.0	4,471	100.0	+17.9
売上原価	3,128	82.5	3,513	78.6	+12.3
売上総利益	664	17.5	958	21.4	+44.3
販管費	619	16.3	641	14.3	+3.6
営業利益	45	1.2	317	7.1	+604.4

▶ 国内・フィリピン共に増収、収益性が改善

日本

2021年8月～2022年1月

売上高3,703百万円（前年同期比+31.4%）

営業利益249百万円（前年同期△5百万円）

5G関連通信機器向け、産業機器向け、自動車向け全て堅調。黒字化。
東北事業部（工場）の加工体制強化が下支え。

フィリピン

2021年6月～11月

売上高798百万円（前年同期比+22.7%）

営業利益32百万円（前期+0百万円）

* 内部取引控除前

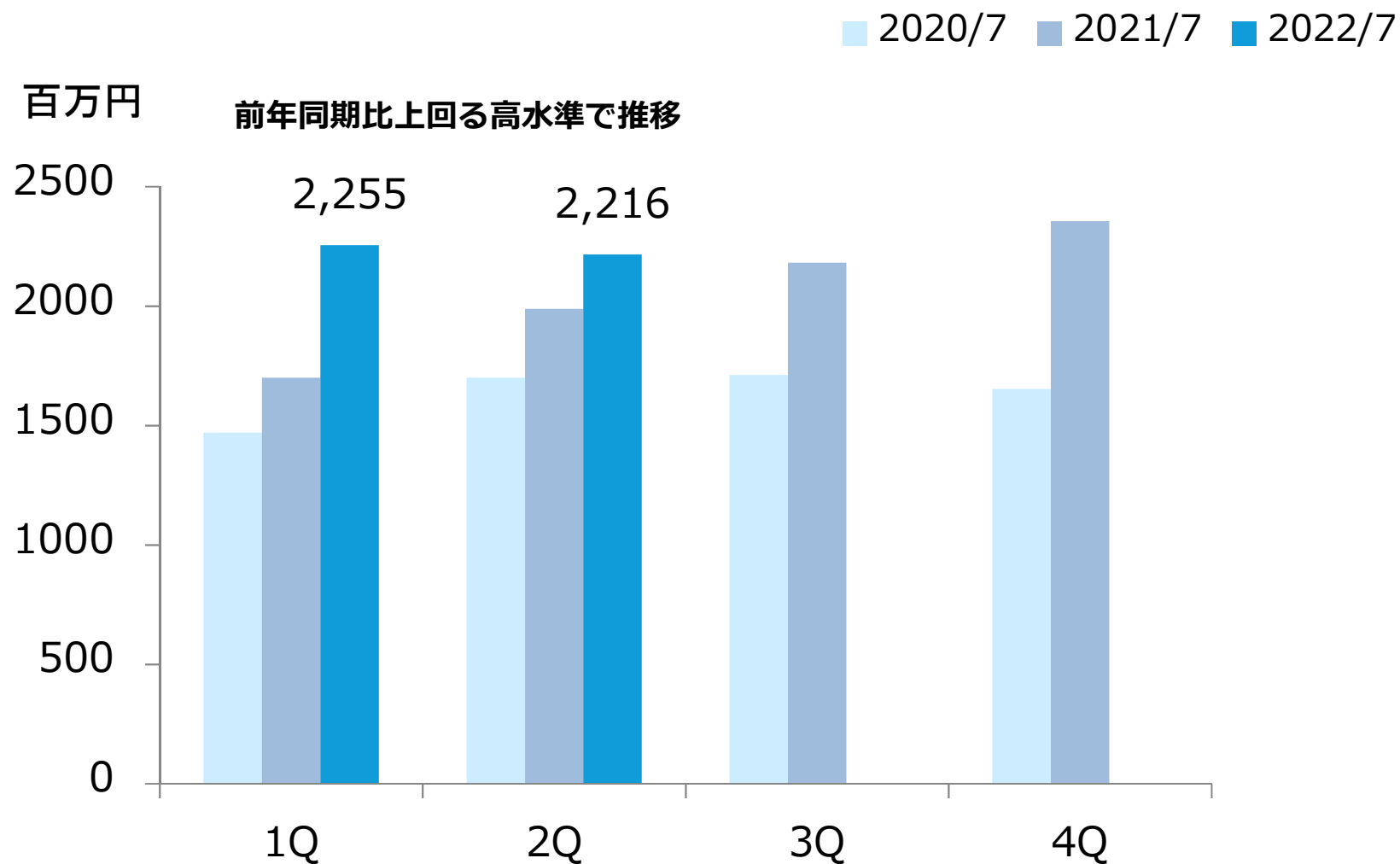
車載向け需要が回復。生産体制見直しも成果。

売上高*	2021/7 2Q**		2022/7 2Q			
		構成比(%)		構成比(%)	増減額	前期比(%)
日本	2,818	73.9	3,703	82.3	+885	+31.4
フィリピン	650	17.0	798	17.7	+148	+22.8

* 内部取引控除前

** 2021年7月期 2Qは、中国現地法人の取引別途あり。

▶ 上半期は好調持続、前年同期を上回る状況に



▶ 純資産額 5,325百万円（自己資本比率49.3%）

▶ 利益剰余金は、+282百万円

（単位：百万円）

	2021/7 末	構成比 (%)	2022/1 末	構成比 (%)	増減額
株 主 資 本	4,775	44.6	5,057	46.8	+282
資本金・資本剰余金	1,832	—	1,832	—	—
利益剰余金	3,067	—	3,350	—	+282
その他の 包括利益累計額	251	—	268	—	+17
純 資 産 合 計	5,027	46.9	5,325	49.3	+2.4ポイント

キャッシュ・フロー

- ▶ 営業活動：需要見込んだ材料調達で棚卸資産増加
- ▶ 投資活動：国内中心に生産能力増強投資は継続
- ▶ 財務活動：借入金の増減は前期契約したシンジケートローンにより一段落

(単位：百万円)

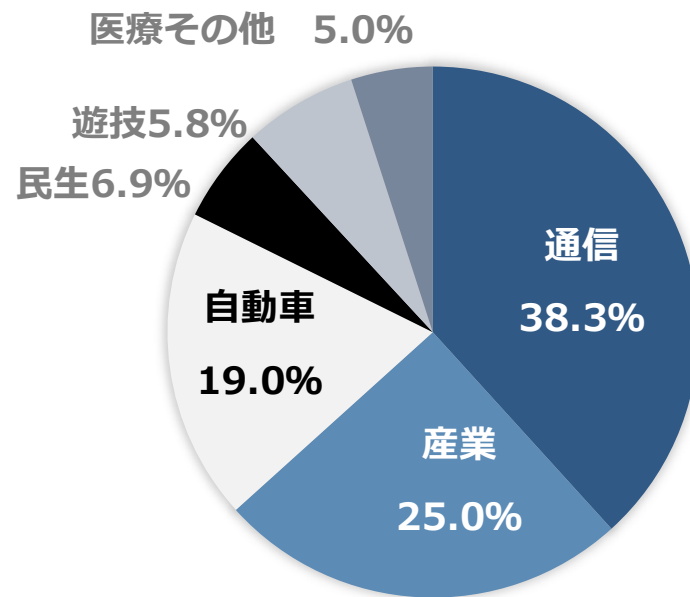
	2020/8-2021/1	2021/8-2022/1	備考
現金・現金同等物 期首残高	2,480	2,971	
営業活動キャッシュ・フロー	+270	+21	棚卸資産の増加△131
投資活動キャッシュ・フロー	△122	△ 103	有形固定資産支出△174
フリー・キャッシュ・フロー	+148	△ 82	
財務活動キャッシュ・フロー	△643	+32	
現金・現金同等物 期末残高	1,957	2,969	

用途別売上構成の推移（国内）

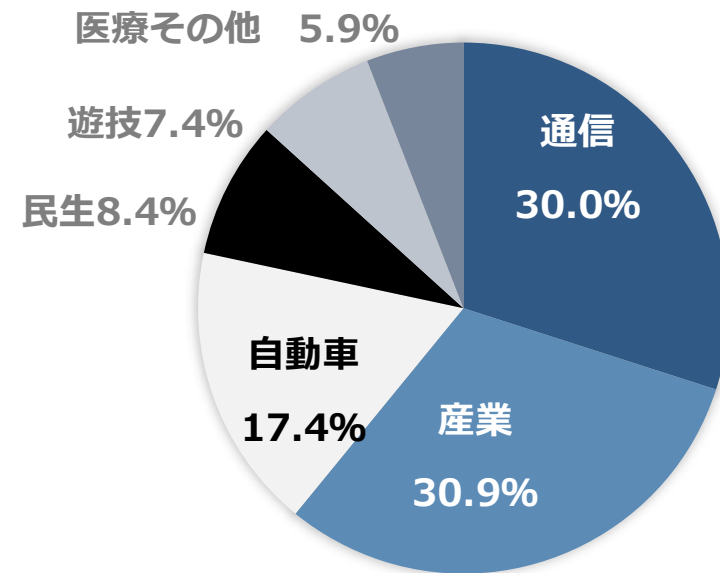
- ▶ 5G関係で、通信関係の比重が高水準で推移
- ▶ 直近は産業機器の比重が増加傾向

・通信：5G高速伝送対応の通信向け需要が旺盛

2021/7



2022/1



2022年7月期 第2四半期業績

2022年7月期 通期見通し

中期事業戦略について

足元の事業動向

ご参考（会社概要等）

▶ めっき需要は中長期安定成長へ、短期的には外部環境の急変を注視

▶ 短期（2022年7月期下半期）

▶ 中長期（2023年7月期～）

めっき事業は基盤技術として着実に成長。

5Gや車載など電子部品需要増加に伴うめっき加工需要は底堅く推移へ

懸念事項として

- ・ 緊迫した世界情勢なども影響し、
資材の高騰やサプライチェーンの混乱
 - ・ コロナ禍からスタートした
半導体生産停滞リスクが継続
 - ・ 下期も予定通り需要増に対応した
当初の設備増強を実施へ
(今期設備投資計画額：前期比1.5倍)
- 
- ・ 長期的には、
「社会のデジタル化」の進展で、
電子部品の需要は着実に増加へ
 - ・ 来期以降も
生産能力強化等、設備投資は
積極的に展開へ

2022年7月期 通期業績見通しを上方修正

5G向け通信分野・産業機器分野・車載分野での電子部品の需要拡大が継続
営業利益率は5.6%に(前期3.3%)

▶ 売上高 : 9,000百万円 (+11.8%)

▶ 営業利益 : 500百万円 (+90.8%)

▶ 当期純利益 : 450百万円 (△53.4%)

(単位：百万円)

	2021/7 実績	2022/7 当初計画	修正計画 (3/14発表)	前期比増減	前期比 (%)
売上高	8,051	8,380	9,000	+949	+11.8
営業利益	262	300	500	+238	+90.8
経常利益	243	260	500	+257	+105.8
親会社帰属 当期純利益	966	270	450	△516	△53.4

5 G 中心に国内通信需要が旺盛

▶ 国内事業の受注が堅調

▶ フィリピンも日系企業との取引で安定成長を見込む

(単位：百万円)

	2021/7 実績		2022/7 計画				
		構成比 (%)	当初計画	構成比 (%)	修正計画 (3/14発表)	構成比 (%)	前期比(%)
合計	8,051	100.0	8,380	100.0	9,000	100.0	+11.8
国内	6,284	78.1	6,880	82.1	7,400	82.2	+17.8
フィリピン	1,420	17.6	1,500	17.9	1,600	17.8	+12.7
中国*	345	4.3	*21年7月期は第1四半期のみ連結対象				

* 内部取引控除前

- ▶ 引き続き設備増設・生産性強化の為に投資を継続
- ▶ 積極的な設備増強により減価償却費用は増加

- ▶ 国内：東北事業部（工場）の生産能力強化投資は継続
（ライン増設、プレス設備増強でプレス・めっき一貫加工体制強化）

（単位：百万円）

	2021/7 実績	2022/7 見込	前期比(%)	前期差異
設備投資額	773	1,150	+48.8	+377
減価償却費	459	500	+8.9	+41
研究開発費	74	80	+8.1	+6

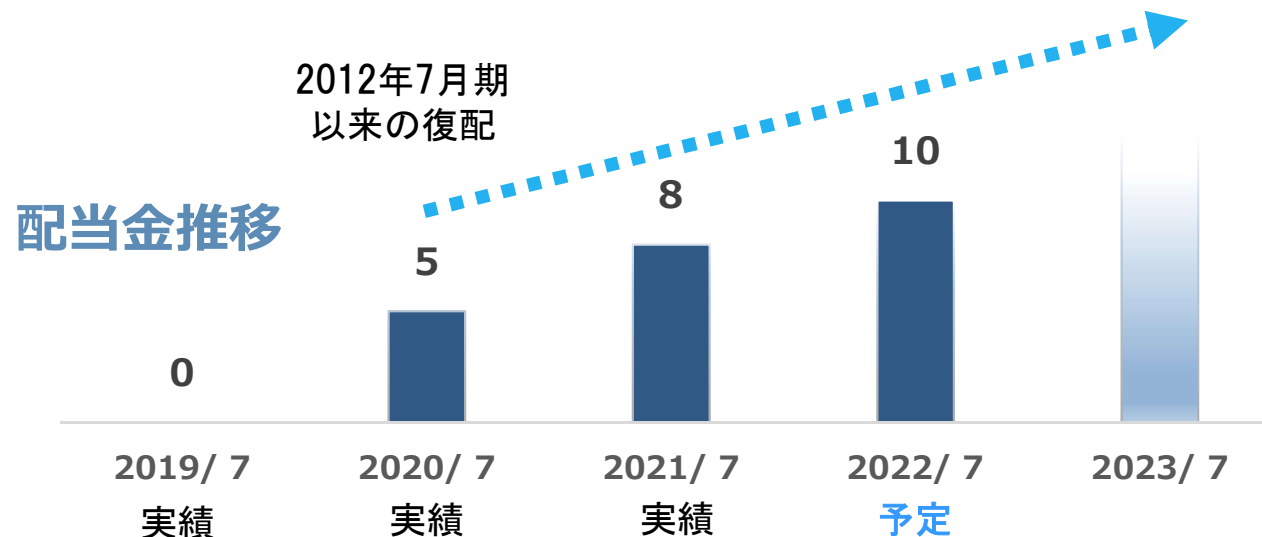
増収増益・収益性改善基調に現れている

▶ **2022年7月期： 予定通り年間10円（前期比+2円）を予定**

当社の経営課題である収益性の継続的な向上が実現
受注が安定、業績が回復し、配当を継続的に増配できる体質に

2022年7月期： 期初予定通り2年増配の年間10円を想定

来期以降も積極的な株主還元策を行う方針



2022年7月期 第2四半期業績

2022年7月期 通期見通し

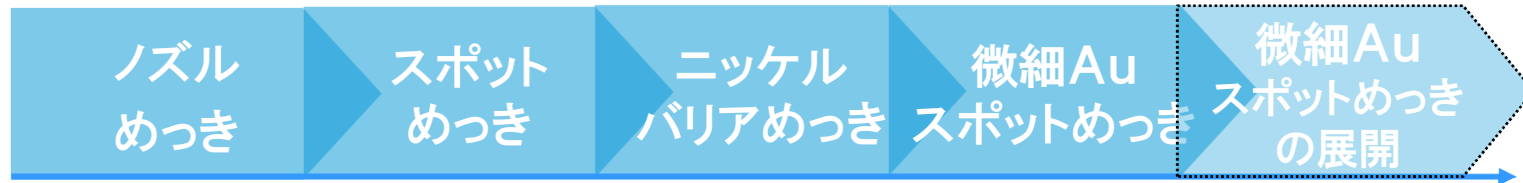
中期事業戦略について

足元の事業動向

ご参考（会社概要等）

強 み

1. めっき加工技術の進化と多様化をリード



* 60余年のめっき加工の歴史で培われためっき加工技術の多彩性

2. 環境負担軽減にも対応したグローバルな品質

* 欧州中心に諸外国での厳しい環境基準をクリア

3. 国内主要電子部品メーカーと安定した協力関係

* 国内主要顧客数十社との売上比率は約80%で安定

「めっき加工」の用途拡大と難易度高度化に耐えられる
技術の多彩さと加工対応力

当社のパーパス：「当社の加工技術」による社会貢献



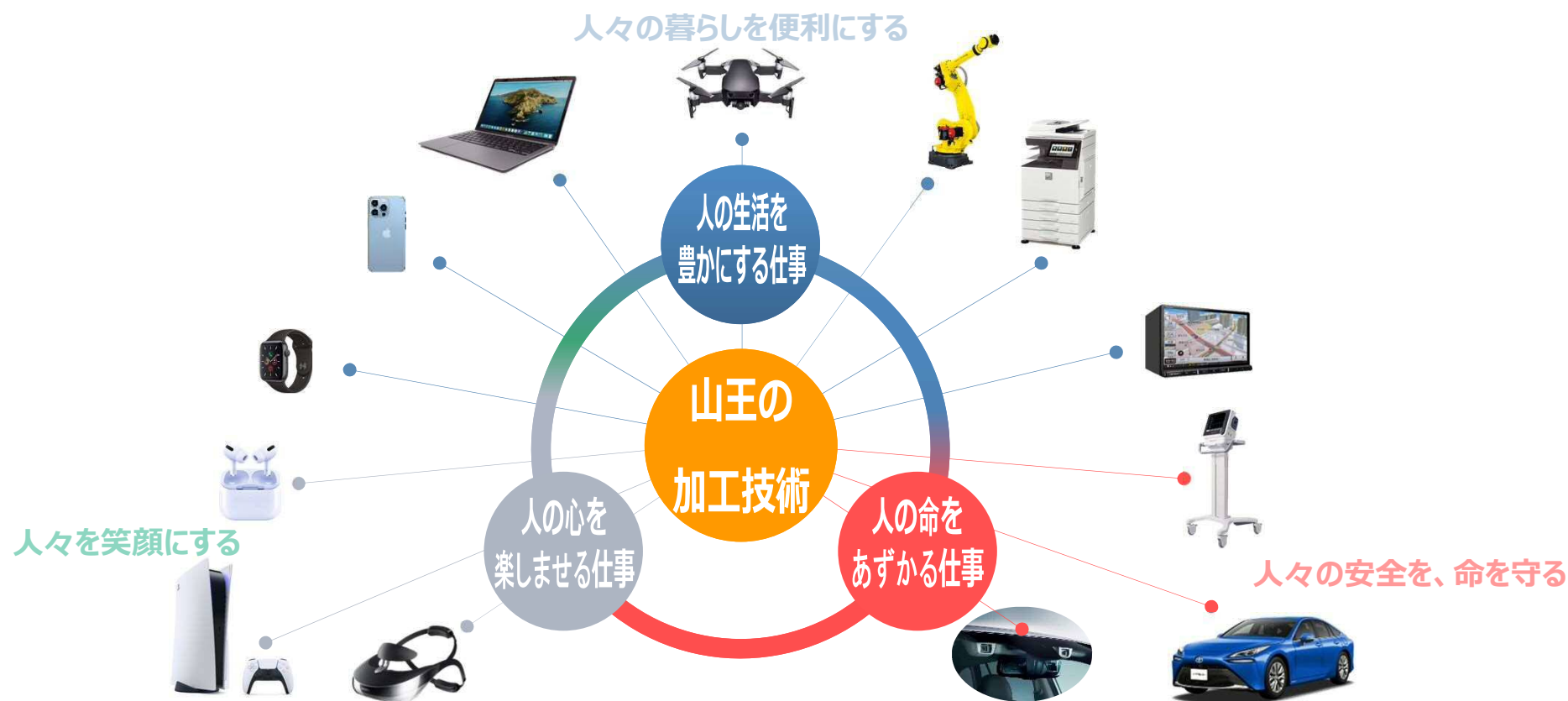
WHY

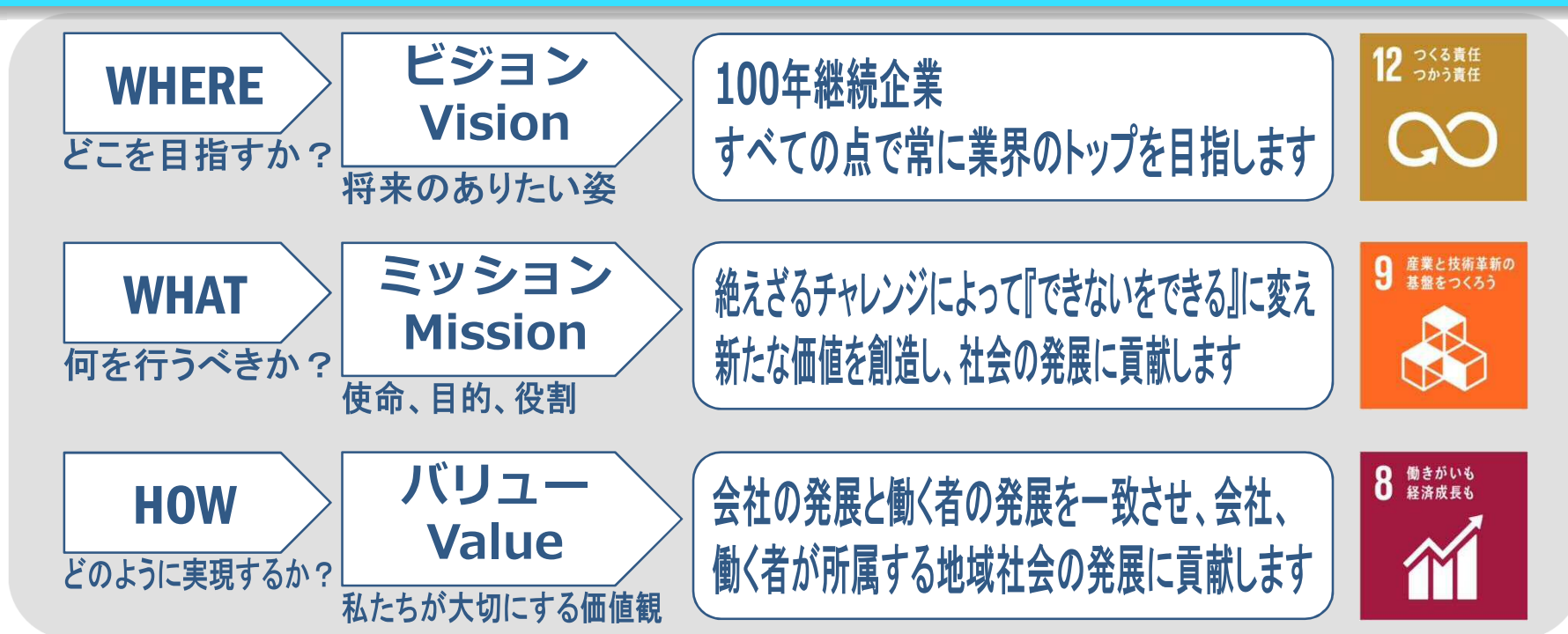
なぜ社会に存在するか？

**パーパス
Purpose**

山王の存在意義

山王グループは、わたしたちの働きで、
社会のインフラを支え
人々の暮らしの安全、便利な社会の実現に貢献します





エレクトロニクス市場予想：年平均成長率3.0%＊

5 G対応など通信機器需要

自動車の電子化
民生品需要

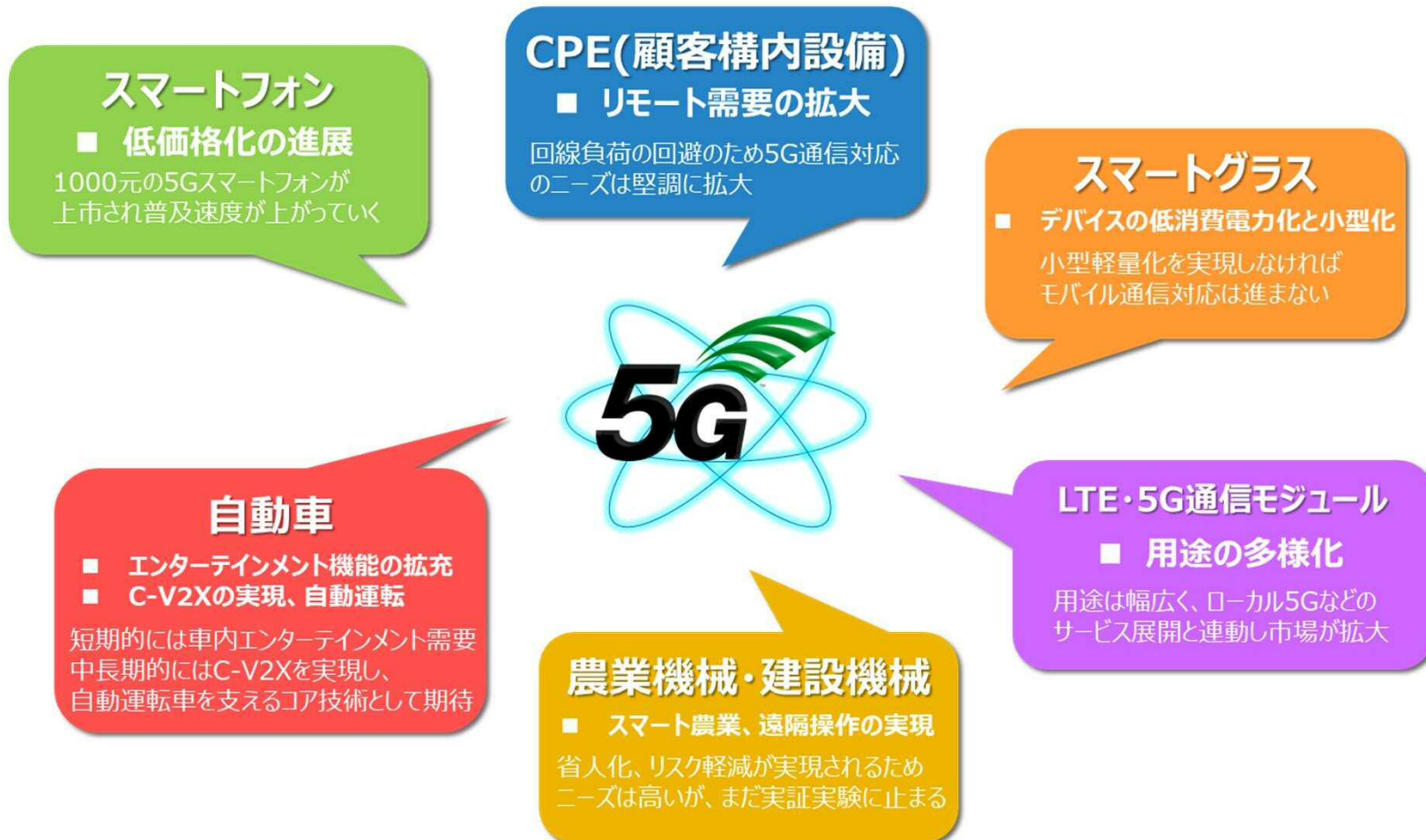
+

IoTの普及（家庭及び工場）
データ量の増加に伴うAIの進化
工場の自動化（ロボット化）

＊ 2025年まで、富士キメラ総研推定

- ▶ 5G関連通信分野への需要は、高水準で推移する見通し
- ▶ CASEによる自動車市場での車載電装機器需要も拡大へ

リアルタイム映像配信、自動運転、遠隔医療、AR/VR……



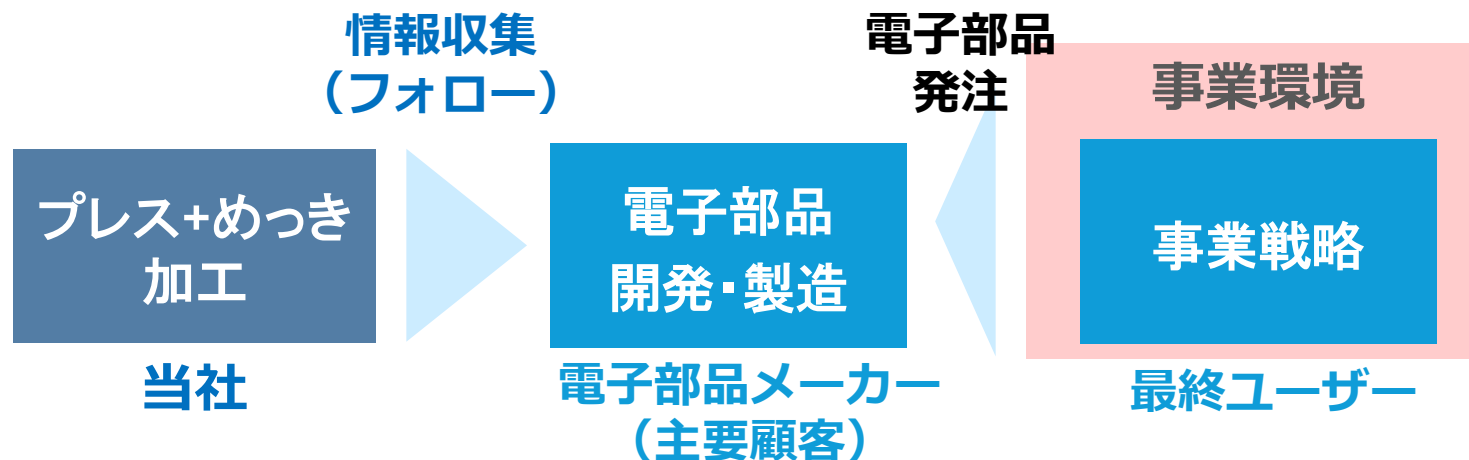
1. 市場の成長を確実に捕捉できる商品力と体制整備



安定したキャッシュ・フローを生む財務基盤の確立

+

2. 市場の最新動向を素早く把握する「情報収集力」の強化



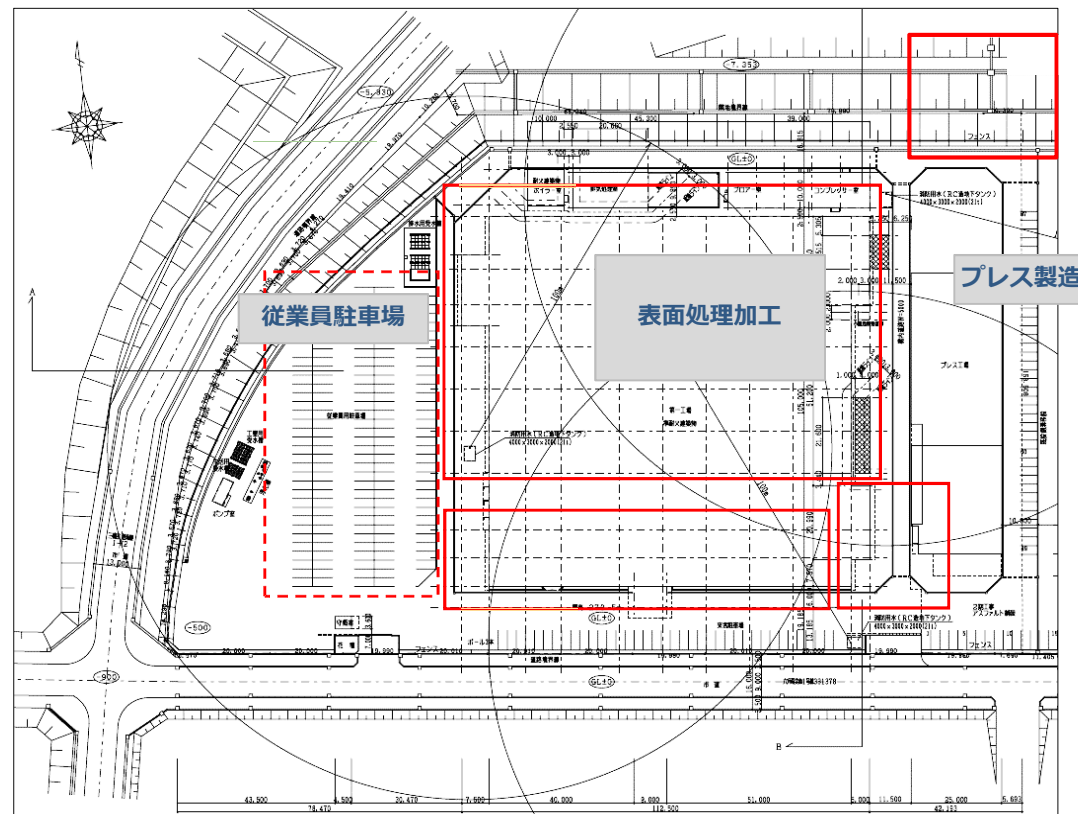
- ▶ 国内の中長期的な電子部品需要増⇒めっき加工需要増に対応
- ▶ 需要増のペースに合わせて拡充
- ▶ 技術対応力増強と生産能力拡大へ



(福島県郡山市)

- ・設備の拡充
- ・物流の効率化
- ・生産設備の新設

プレス・めっき
一貫加工体制の強化
(生産の垂直統合)



・東北事業部(工場)の敷地面積: 33,000㎡

▶ 環境対策（公害発生防止）へ、環境負荷低減を徹底

関連する目標	取り組みの事例	関連する目標	取り組みの事例
	5G関連を中心とした電子部品の製造・販売を通して、生活に関わる社会インフラの基盤構築に貢献し、人々の生活水準の向上に寄与しています。 - 従業員の積極的な採用を推進し、雇用の創出に寄与しています。	  	「IATF16949」や「ISO14001」の認証取得により、全社的な環境マネジメント活動を通して、環境汚染の予防、持続可能な資源の利用など、環境保護に取り組んでいます。 - 公害の発生を未然に防ぐため、処理施設の完備と排水処理管理の徹底を図っています。また、排水中に含まれる貴金属を回収するなど、工程内リサイクルの実施により、資源の有効利用にも力を入れています。
	- ウェアラブル端末機器等で健康管理が普及しており、それらに関わる電子部品の供給を通して、間接的に人々の健康的な生活の維持・向上に貢献しています。 - 自動車衝突安全装置への部品供給等を通して、車を運転する人々の安全確保に貢献しています。		育児・介護についての制度を取得しやすい環境を整備することで、働き甲斐のある職場環境づくりを行っています。
	- Eラーニング等に必要通信デバイス（PCやスマホ等）の電子部品の供給を通して、間接的に人々の教育機会の創出に寄与しています。 - 社内の従業員に対し、各種資格の取得を奨励しており、取得に必要な費用などを負担し、従業員のスキルアップの機会をつくっています。	 	- 東工大および産業技術総合研究所とのパートナーシップによる共同研究開発を推進し、人々の生活を豊かにするイノベーションの創出に努めています。 - 当社施設内の体育館を活用し、地域の小・中学生、社会人とスポーツを中心としたクラブ活動を通しての地域交流を積極的に行っています。
 	「金属複合水素透過膜」の開発により、様々な生活インフラへの適用や燃料電池車への搭載等を通して、「水素社会」の実現を目指しています。 「銀めっきアクリル粒子」の開発により、太陽光発電などにおける効率性を向上させ「再生可能エネルギー」の普及を目指しています。 - 各生産拠点で照明のLED切り替え作業を進めており、省エネルギー化に努めています。		

*** ESGのS（社会）**
「かながわ治療と仕事の両立推進企業」
に認定（2021年8月）

2022年7月期 第2四半期業績

2022年7月期 通期見通し

中期事業戦略について

足元の事業動向

ご参考（会社概要等）

増加するめっき需要への対応力を強化

▶ 商品力強化

めっきライン新設 による加工体制の強化

- 試作短納期対応
- 少量多品種対応
- 量産超高速化対応



プレス・めっき一貫生産強化

- プレス機増設
- 隣地生産による受注力強化

▶ コスト対応力強化

- めっき加工ラインの改造・新設
- めっき加工治具変更、材料使用量の管理強化による材料費低減

▶ 開発力強化

- 既存分野の研究・開発機能の強化
- 教育強化

▶ グループ最大の生産拠点のさらなる充実

東北事業部（工場）の生産能力向上と加工体制強化はさらに推進

鈴川工場（神奈川）から量産加工を
移管し集約、量産設備を増設、改造

めっきライン増設

さらに増設へ



高難易度製品に対応可能な加工
技術、設備対応を随時推進

量産加工を秦野工場（神奈川）
から移管、プレス加工を増強

プレス機増強

さらに増強へ



- ①物流のリードタイムを短縮
- ②秦野工場の技術に移管+自動化設備導入

省人化投資と生産能力増強

▶ 取締役現地法人社長を中心に、順調に施策対応力を強化

生産体制、コスト構造の見直しを推進

設備対応、収益性等の検討

主材料管理、受注品の管理体制を効率化、顧客対応力を強化

アフターコロナの自動車向け需要の回復に対応



▶ 引き続き事業化を推進中

「水素透過膜」「銀めっきアクリル粒子」等の新規開発品は、それぞれ企業等と秘密保持契約を締結の上、共同開発による事業化を推進中

▶ 「水素透過膜」実用化進展

水素のみを通すパラジウム銅(PdCu)合金の特性に着目し、合金めっき法による水素透過膜製造技術確立

(Int. J. Hydrog. Energy 2019;44:8290-7, 特許6695929号)

「薄膜化」「大面積化」を進め、
水素利用拡大を目指す企業様向けに提供



▶ 「水素透過膜」 開発状況

事業化に向け具体的な課題解決の為、共同研究を推進

- ・ 東京工業大学
(科学技術創成研究院 ゼロカーボンエネルギー研究所)
- ・ 産業技術総合研究所
(福島再生可能エネルギー研究所)

新たな技術の確立

比較的安価なバナジウム(V)膜上へパラジウム銅(PdCu)合金膜を簡単に製膜する技術を確立。
(*Int. J. Hydrog. Energy* 2021;46:32570-6)



福島県再生可能エネルギー事業化実証研究支援事業実施中
(2021年9月～)

省スペース・低コストな水素透過技術の開発を推進

2022年7月期 第2四半期業績
2022年7月期 通期見通し
中期事業戦略について
足元の事業動向
ご参考（会社概要等）

▶ 表面処理加工、精密プレス加工を行う会社

事業内容： 電子部品を対象とした貴金属表面処理加工・精密プレス加工、
金型設計・製作

創業： 1958年8月

代表者： 代表取締役社長 三浦 尚

所在地： 本社：神奈川県横浜市港北区綱島東5-8-8

資本金： 9億6,220万円 (2021年7月末現在)

売上高： 80億5,100万円 (2021年7月期)
(連 結)

事業拠点： 日本・フィリピン

従業員数： 391名 (2022年1月末現在)
(連 結)

▶ 素材（金属）の性能を高める表面処理

通電性

半永久的な通電性が求められる電子部品には、耐食性に優れ、通電性の良い金めっきが適している。

耐食性

金は金属に発生する錆（酸化）に最も強いため、金めっきを施した後処理として防錆処理をすることで耐食性を向上させることが可能。

半田付性

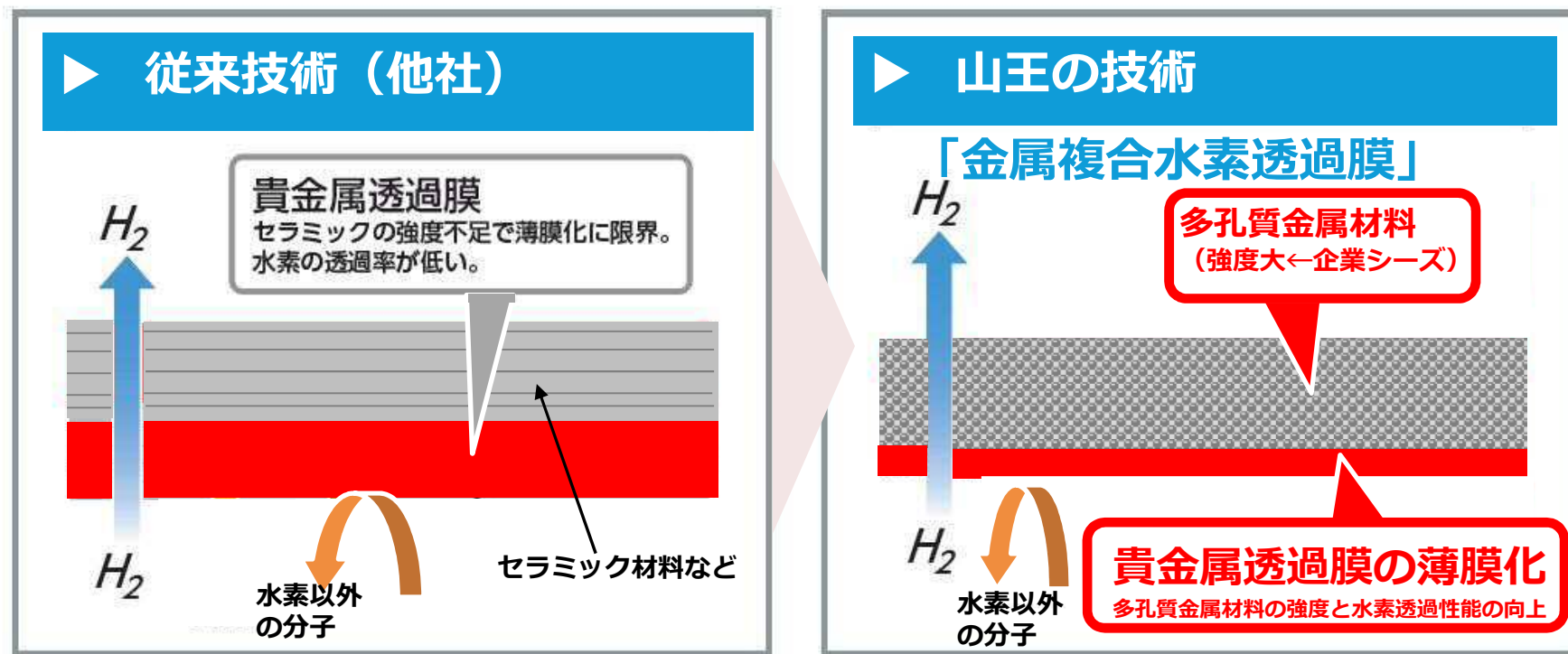
電子部品をボードに実装するのには半田（鉛フリー）が活用されている。さらに、ピンに金めっきまたは半田めっきを施すことによって、スムーズで強固な装着が可能。

挿抜性

金めっきと防錆処理は、コネクタを接続する際にスムーズに挿入・抜去できる方法としても最適。

- ①当社めっき事業ノウハウを活かした周辺分野への進出
- ②東工大・産業技術総合研究所との「産学共同研究」
(特許件数：5件)

めっきの微細加工技術を活用した**高効率な水素製造部品**
水素製造装置への展開を想定



本資料は、当社の事業及び業界動向について当社による現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確かさが伴っています。既に知られた、もしくははまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。当社は、将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なることもありえます。

本資料における将来の展望に関する表明は、2022年3月現在において利用可能な情報に基づいて、当社により2022年3月現在においてなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。

貴金属表面処理加工分野の
リーディングカンパニー



証券コード番号 3441